

海津城内

海津城は永禄3年(1560)頃に武田信玄によって築かれ、春日虎綱が城代となった。この時、虎綱は34歳であった。北信の要で信玄と上杉謙信の川中島の合戦の舞台となった城である。築城の背景として、信濃国牧城主の香坂宗重の松代への知行替えが挙げられる。宗重は弘治2年(1556)、松代に香坂城(弾正館)を構えるが、弘治3年(1557)の第3次川中島の戦いで焼失した。その結果、永禄3年(1560)頃に海津城が築城されることとなった。春日虎綱(高坂弾正)は、上杉謙信との川中島の戦いで本陣の役割を果たした。

(川端紅葉著 2026・4・10)



「海津城内」 ©2017.9 川端紅葉

遠方の山は左が尼巖山、右が奇妙山